（別紙様式4）

令和8年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	平成14年3月14日	上杉　敬治	〒　761-8056 （住所）　香川県高松市上天神町722-1 （電話）　087-815-3300
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹　忠嗣	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1丁目22番23号 （電話）　087-823-2266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成17(2005)年度	－	平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	理学療法士における基本的な問題解決能力を身につけた人材を養成する
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	実力と情熱を備えた理学療法士の育成を目指した教育プログラム

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4　年	昼間	124　単位	64 単位	32 単位	22 単位	0 単位	6 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
160 人	59 人	0 人	0 %	7 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	26	人
■就職希望者数（D）	23	人
■就職者数（E）	23	人
■地元就職者数（F）	21	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	91	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	81	%
■進学者数	0	人

■その他

なし

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

医療法人社団新進会おさか脳神経外科病院、医療法人社団聖心会　阪本病院、医療法人社団雙和会クワヤ病院、医療法人社団おか整形・リハビリクリニック、医療法人社団重仁 まるがめ医療センター、医療法人社団研宣会　広瀬病院、おおにし整形外科スポーツクリニック、医療法人社団永井整形外科医院

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/rehabilitation/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数	124 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	21 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
うち必修単位数	21 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	21 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	21 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	4 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		6 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	6 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和8年7月23日　20:00～20:30/第2回　令和9年3月予定
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
松本　義人	医療法人社団　西高松脳外科・内科クリニック　理事長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	③
藤井　保貴	一般社団法人　香川県理学療法士会　副会長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	①
田岡　知代	医療法人社団新進会　おさか脳神経外科病院　リハビリテーション部　顧問	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	③
上杉　敬治	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―
戸倉　潤也	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　副校長 兼教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―
植野　英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　副校長補佐	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―
山下　良二	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―
村上　匡司	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　主任	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
見学実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	臨床現場の中で診療補助体験や対象者への問診、評価体験等を通じて、専門家としての適切な振る舞いや対応、実践的コミュニケーション能力を習得する。	岡病院、樫村病院、りつりん病院、おさか脳神経外科病院、総合病院回生病院、介護老人保健施設ヌーベルさんがわ、高松南整形外科スポーツクリニック（他、29施設）
評価実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	対象者に関する情報収集や問診から抱えている問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル（情報処理過程）を学ぶ。	香川県立白鳥病院、阪本病院、香川済生会病院、三条整形外科スポーツクリニック、永生病院、やしまリハビリステーション、介護老人保健施設城山苑（他、26施設）
評価実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	対象者に関する情報収集や問診から抱えている問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル（情報処理過程）を学ぶ。	令和8年度は4年制への移行のため対象学年無し
総合臨床実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	評価実習で経験した認知的スキルのトレーニングをさらに積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中から掴み、知識を構造化する。また認知領域スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。	香川大学医学部附属病院、東高松クリニック、屋島総合病院、高松赤十字病院、永井整形外科医院、おおにし整形外科スポーツクリニック、橋本病院 （他、19施設）
総合臨床実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	評価実習で経験した認知的スキルのトレーニングをさらに積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中から掴み、知識を構造化する。また認知領域スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。	楓の森整形外科、高松協同病院、香川県立中央病院、高松病院、かがわ総合リハビリテーション企業団、三豊市西香川病院、永井循環器内科病院 （他、24施設）

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①本学において企画し実施する研修は、受講必須研修と任意選択研修に分ける。
②受講必須研修は、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上や学校運営・教育マネジメント等に関する専門能力の修得・向上を目的として、本学の教員として必ず修得しなければならない。
③任意選択研修は、指導力のさらなる向上や、より高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。その内容は毎年、見直しを行う 教員は毎年、最低1つは受講しなければならない。
④本学は、教員に必須研修、任意選択研修に加え、専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上を目的として、公益社団法人日本理学療法士協会、全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教員研修会、一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団等の主催する研修や、専門団体等への研修を命ずることがある。
⑤教員は、年間15時間以上の研修を受講しなければならない。
⑥管理職は、教員に年間15時間以上の研修を受講させなければならない。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	第31回香川県理学療法士学会	連携企業等：	（一社）香川県理学療法士会
期間：	令和8年2月8日（日）	対象：	理学療法士
内容	Next Frontier−理学療法士の未来を創る挑戦		
研修名：	第53回四国理学療法士学会	連携企業等：	（一社）香川県理学療法士会
期間：	令和7年11月29日（土）、30日（日）	対象：	理学療法士
内容	理学療法の深化と進化		
研修名：	第96回日本衛生学会学術総会	連携企業等：	日本衛生学会学術総会
期間：	令和8年3月19日（木）～21日（土）	対象：	医療従事者
内容	総合知で人の生をまもる		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第39回教育研究大会・教員研修会	連携企業等：	全国リハビリテーション学校協会
期間：	令和8年9月26日(土)・27日(日)	対象：	養成校教員
内容	連携が拓く リハビリテーション教育の未来		
研修名：	非認知能力養成研修	連携企業等：	学校法人穴吹学園
期間：	令和7年8月18日（月）	対象：	教員
内容	学生の意識づけを高める「見取り」について		
研修名：	穴吹学園教員研修	連携企業等：	学校法人穴吹学園
期間：	令和8年9月7日（月）	対象：	教員
内容	PLAYMAKE を活用したワークショップ体験会		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第32回香川県理学療法士学会	連携企業等: (一社)香川県理学療法士会
期間:	令和9年2月14日(日)	対象: 理学療法士
内容	自問自答の先に揺るぎない専門性が宿る	
研修名:	第54回四国理学療法士学会	連携企業等: (公社)徳島県理学療法士会
期間:	令和8年11月28日(土)、29(日)	対象: 理学療法士
内容	革新改革　理学療法士の未来像	
研修名:	アスレティックトレーナー専門科目講習会	連携企業等: 公益財団法人　日本スポーツ協会
期間:	令和8年11月27日(金)～29(日)	対象: スポーツ関係者
内容	コンディショニング　救急対応	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	香川県探究部会研修	連携企業等: 香川県高等学校教育研究会
期間:	未定	対象: 教員
内容	未定	
研修名:	穴吹学園教員研修	連携企業等: 学校法人穴吹学園
期間:	未定	対象: 教員
内容	未定	
研修名:	非認知能力養成研修	連携企業等: 学校法人穴吹学園
期間:	未定	対象: 学校法人穴吹学園
内容	未定	

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
松本　義人	医療法人社団　西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	企業等委員
藤井　保貴	一般社団法人　香川県理学療法士会　副会長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	職能団体
樋本　英司	一般社団法人　香川県作業療法士会　理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	職能団体
田岡　知代	医療法人社団新進会　おさか脳神経外科病院　リハビリテーション室長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	企業等委員
中川　真人	介護老人保健施設　白寿の杜　リハビリ室長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	企業等委員
中川　弘一	香川県立香川中央高等学校　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	教育機関
平尾　浩一郎	香川県立丸亀城西高等学校　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	教育機関
亀山　健太	穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会　　会長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	卒業生
西村　康江	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 保護者会　支部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	保護者会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/wp-content/uploads/2026/08/911da987165136f18befba8662f41368.pdf		
公表時期	平成38年9月1日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	その他	「その他」の場合	実習指導者会議
公表URL			
公表時期	平成38年4月17日		

授業科目等の概要

	（医療専門課程 理学療法学科）														
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○	－	－	心理学	心理学の基礎的知識に触れることを通して、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対し、多角的な視点からの思考を学ぶ	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
2	○	－	－	情報科学	「情報」の意味および価値を理解すると共に、一般情報のデジタル化、デジタル化された情報をＩＴを使って情報活用技術全般の基礎を学ぶ	1前	1	－	○	－	○	－	○	－	－
3	○	－	－	生化学	生体内での生命現象を分子レベル、タンパク質や遺伝子がどの様に制御されているのかを学ぶ。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める	1前	2	○	－	－	○	－	－	○	－
4	○	－	－	統計学	臨床や研究に必要な統計知識を身に付ける。統計学の知識を有した状態で論文抄読が可能となり、自身も統計学を利用してデータ分析ができる	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
5	○	－	－	人間工学	立位、立ち上がり動作の運動学的分析方法を身につける	2前	1	－	○	－	○	－	○	－	－
6	○	－	－	物理学	理学療法の内容と物理学との知識を融合する。また、国家試験問題が読解できるレベルまでの物理学基礎を学ぶ	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
7	○	－	－	健康科学	「健康」の視点から現代社会の抱える問題と生涯にわたる運動の必要性を理解する	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
8	○	－	－	医学英語	理学療法士の臨床業務で使用頻度の高い医学英語について、「意味を理解する」「スペルを正確に書ける」「医療職の共通言語として使用できる」ことを目指す	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
9	○	－	－	人間育成学Ⅰ	医療人としての人間性、資質を培い、問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。また、理学療法評価の一部を経験し、基礎知識の必要性を意識する	1前	2	－	○	－	○	－	○	－	－
10	○	－	－	人間育成学Ⅱ	医療人としての人間性、資質を培う。問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。1年生への知識・技術の伝達を通し、自分のそれらのスキルアップを図る	2前	2	－	○	－	○	－	○	－	－
11	○	－	－	解剖運動学Ⅰ	身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－

12	○	－	－	解剖運動学Ⅱ	身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
13	○	－	－	体表面解剖学Ⅰ	上肢の体表面について、骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる	1前	1	－	－	○	○	－	○	－	－
14	○	－	－	体表面解剖学Ⅱ	体幹下肢の体表面について、骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる	1後	1	－	－	○	○	－	○	－	－
15	○	－	－	解剖生理学Ⅰ	神経系（中枢神経系）の構造（つくり）及び、機能（はたらき）について教授する	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
16	○	－	－	解剖生理学Ⅱ	神経系の構造（つくり）および機能（はたらき）について学習する	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
17	○	－	－	解剖生理学Ⅲ	内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
18	○	－	－	解剖生理学Ⅳ	内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
19	○	－	－	生理学演習	理学療法の基礎となる生理学的知識を、理論から実際の生体反応へ結びつける。演習を通じて、各種測定技術を習得し、臨床現場で即応できるスキルを身につける	1後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
20	○	－	－	人間発達学	胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
21	○	－	－	解剖学実習	知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努める。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む	2後	1	－	－	○	○	○	○	－	－
22	○	－	－	臨床心理学	臨床心理分野の疾患とその治療法を理解し、自分たちの職種で出来る各疾患の治療法について学ぶ	1後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
23	○	－	－	一般臨床医学	代表的な疾患の概要や症状・治療について習得する	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
24	○	－	－	リハビリテーション診断学	画像の種類や特徴などについて学び、得られる情報に気付くトレーニングを行う。また、得られた情報から考えられる病態を模索する	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
25	○	－	－	リハビリテーション整形外科学	整形外科の一般的疾患について病態と治療に関して必要な知識を習得する	2後	2	○	－	－	○	－	○	－	－

26	○	－	－	リハビリテーション神経学Ⅰ	リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や症状を理解する	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
27	○	－	－	リハビリテーション神経学Ⅱ	リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や症状を理解する	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
28	○	－	－	リハビリテーション内科学Ⅰ	リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患）について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
29	○	－	－	リハビリテーション内科学Ⅱ	リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
30	○	－	－	精神医学	精神医学の基礎について学び、国家試験に準拠した内容を十分に理解し、理学療法業務に活かす	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
31	○	－	－	小児科学	小児特有の疾患・先天性疾患について理解を深める	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
32	○	－	－	老年学	身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。また、老化にともなって生じる障害や病態について理解を深める	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
33	○	－	－	病理学	病気の原因やメカニズムを解明し、病気によって生じる身体の変化を研究する医学の一分野である。病因の理解に必要な学問である	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
34	○	－	－	リハビリテーション栄養学・薬理学	栄養学・薬理学は、疾患や障害の有無にかかわらず、人間の日々の生活において大きな影響をもたらす。またスポーツ(運動）に必要な知識を取得する	2後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
35	○	－	－	リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と多職種連携、チームアプローチの重要性について学ぶ	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
36	○	－	－	理学療法概論	理学療法の歴史と発展の背景、現状を把握し、今後の発展性について学ぶ	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
37	○	－	－	保健医療福祉論	リハビリテーションに関係の深い保険（保健）制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める	2前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
38	○	－	－	基礎理学療法学Ⅰ	骨、関節、軟骨組織の構造を学び、それらの治癒過程とバイオメカニクスの総論を学ぶ	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
39	○	－	－	基礎理学療法学Ⅱ	皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能、治癒過程を学び、損傷されるメカニズム（バイオメカニクス）を学ぶ	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－

40	○	－	－	日常生活活動学	日常生活活動（ADL）の概念と範囲、意義を学ぶ	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
41	○	－	－	理学療法研究論Ⅰ	文献検索の方法を学び、抄読の習慣化、文献検索能力を高める。研究論文の構成や内容を理解し、研究手法を身につけ、研究課題に取り組む	1後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
42	○	－	－	理学療法研究論Ⅱ	研究論文の構成や内容を理解し、研究手法を身につけ、研究課題に取り組む	2後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
43	○	－	－	理学療法研究論Ⅲ	研究論文の構成や内容を理解し、研究手法を身につけ、研究課題に取り組む 2年生が実施する研究や発表に対して査読し、アドバイスができる	3後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
44	○	－	－	スポーツ科学Ⅰ	スポーツ現場における論文の活用について学び、「視力」「筋力」「持久力」「瞬発力」「跳躍力」の5大基礎体力の測定方法を学修する	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
45	○	－	－	スポーツ科学Ⅱ	食事や身体組成と運動パフォーマンスとの関連について学修し、間欠的持久力の測定と評価、運動パフォーマンスとの関係、身体の生理学的応答について学ぶ	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
46	○	－	－	スポーツ科学Ⅲ	筋力の発揮やトレーニングにかかわる基本的知識を習得するとともに、BIODEXを用い筋力測定方法を学ぶ	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
47	○	－	－	スポーツ科学Ⅳ	運動負荷に伴う呼吸応答について基礎知識を習得するとともに、実際に呼気ガス分析装置にて計測し、原理や解釈について学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
48	○	－	－	理学療法総合演習	国家試験合格に向けて、4年間の学習内容の復習を行う	4後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
49	○	－	－	理学療法管理学	総合臨床実習に出る前、就職活動をする前に、理学療法士として働くことの意義や内容、理学療法士の社会についてなどを理解する	3後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
50	○	－	－	理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な基本的身体機能検査法について学ぶ	1後	1	－	－	○	○	－	○	－	－
51	○	－	－	理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な各種検査測定について学ぶ	2前	2	－	－	○	○	－	○	－	－
52	○	－	－	理学療法評価学Ⅲ	各疾患についての基本的な評価を行うことができる	2後	1	－	－	○	○	－	○	－	－
53	○	－	－	理学療法評価学演習	理学療法評価学Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を基に各疾患ごとの評価の組み立て、プロセスを学ぶ	3前	1	－	○	－	○	－	○	－	－

54	○	－	－	動作分析セミナー	動作分析の概要及び方法論を教授する。また、事例を通して臨床的思考と問題解決を学ぶ	2後	1	－	○	－	○	－	○	－	－
55	○	－	－	運動療法学	主要な障害の仕組みを学び、傷害に対する評価と方法を実践する	2前	1	－	○	－	○	－	○	－	－
56	○	－	－	物理療法学	物理療法の分類、各機器の特性、各種物理的刺激の身体に対する反応を学び、実際に機器を使用することで、予測された効果や反応などを確認する	3前	1	－	○	－	○	－	○	－	－
57	○	－	－	義肢学	「切断」について。「義肢」の中でも特に「義足」についての基本的な知識、切断者の評価、運動療法などを学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
58	○	－	－	装具学	「装具」の中でも特に「下肢装具」と「体幹装具」についての基礎的な知識の理解。「装具学」による治療・評価などの知識の理解	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
59	○	－	－	パラスポーツ	障がい者スポーツ指導者としての必要な知識を学習する	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
60	○	－	－	トレーニング理論	トレーニングに必要な理論を学び、実際の現場で使用できる技術を身につける	3後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
61	○	－	－	スポーツ傷害の理学療法	主な脊椎・脊髄疾患、上肢疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
62	○	－	－	整形外科疾患の理学療法Ⅰ	脳血管障害による片麻痺ついて、疾患の概要及び理学療法の介入方法を学ぶ	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
63	○	－	－	整形外科疾患の理学療法Ⅱ	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、などの主要な神経筋疾患について、疾患の概要及びリハビリテーションの方法を学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
64	○	－	－	整形外科疾患の理学療法Ⅲ	主な脊椎・脊髄疾患、上肢疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
65	○	－	－	中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	脳血管障害による片麻痺ついて、疾患の概要及び理学療法の介入方法を学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
66	○	－	－	中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、などの主要な神経筋疾患について、疾患の概要及びリハビリテーションの方法を学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
67	○	－	－	内部障害の理学療法Ⅰ	呼吸器疾患における病態生理と理学療法の目的と実際について理解し、呼吸評価と理学療法の目的と効果を学習する	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
68	○	－	－	内部障害の理学療法Ⅱ	主に虚血性心疾患における病態生理および治療の目的と流れを学習する	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－

69	○	－	－	内部障害の理学療法Ⅲ	各疾患の病態を理解する。また、生理学的知識に則り運動療法や予防方法などについて考察する	3後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
70	○	－	－	発達障害の理学療法	運動器疾患における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定と実施までの臨床推論の能力を身につける	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
71	○	－	－	骨関節系理学療法演習	脳血管障害における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定とプログラム立案までの能力を身につける	3後	1	－	○	－	○	－	－	○	－
72	○	－	－	神経系理学療法演習	呼吸器疾患における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定と実施までの能力を身に着ける	3後	1	－	○	－	○	－	－	○	－
73	○	－	－	ペーパーペイシェントセミナーⅠ	運動器疾患における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定と実施までの臨床推論の能力を身につける	3後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
74	○	－	－	ペーパーペイシェントセミナーⅡ	脳血管障害における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定とプログラム立案までの能力を身につける	3後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
75	○	－	－	ペーパーペイシェントセミナーⅢ	呼吸器疾患における病態把握のための評価思考過程を画像所見や初期情報から導き出し、一連の検査項目の選定と実施までの能力を身に着ける	3後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
76	○	－	－	理学療法セミナー	様々なジャンルで活動している理学療法士から活動事例を伺い、異なる視点から理学療法の職域の可能性を考える	4前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
77	○	－	－	卒業研究	学生が自ら選定したテーマに基づき、研究計画立案と文献検索、実施および論文作成を行う	4後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
78	○	－	－	地域理学療法学	地域（在宅）で安心してその人らしい暮らしができるよう支援し、地域住民がともに暮らす体制づくりをするという視点を学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
79	○	－	－	生活環境学Ⅰ	患者や高齢者を取り巻く「環境」「社会資源」「福祉用具」について学ぶ	2後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
80	○	－	－	生活環境学Ⅱ	在宅生活における環境設定について、基本的な知識と障害別の住環境整備を学ぶ	3前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
81	○	－	－	見学実習	学校が連携している臨床経験５年以上の理学療法士が勤務する医療施設または介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	1後	1	－	－	○	－	○	－	○	○
82	○	－	－	評価実習Ⅰ	理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと評価を中心とした実習を行う	2後	2	－	－	○	－	○	－	○	○
83	○	－	－	評価実習Ⅱ	理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと評価を中心とした実習を行う	3後	2	－	－	○	－	○	－	○	○

84	○	－	－	総合臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者講習会修了者である臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	4 前	8	－	－	○	－	○	－	○	○
85	○	－	－	総合臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者講習会修了者である臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	4 前	8	－	－	○	－	○	－	○	○
合計					85 科目					124 単位							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	取得単位124単位	1学年の学期区分	2 期
履修方法：	理学療法士養成校指定条件	1学期の授業期間	16 週

（別紙様式4）

令和8年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ	平成14年3月14日	上杉　敬治	〒　761-8056 （住所）　香川県高松市上天神町722-1 （電話）　087-815-3300
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹　忠嗣	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1丁目22番23号 （電話）　087-823-2266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	作業療法学科	平成17(2005)年度	－	平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	作業療法士における基本的な問題解決能力を身につけた人材を養成する
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	実力と情熱を備えた作業療法士の育成を目指した教育プログラム

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4　年	昼間	124　単位	84 単位	8 単位	30 単位	0 単位	2 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
100 人	23 人	0 人	0 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数(C)	8	人
■就職希望者数(D)	8	人
■就職者数(E)	8	人
■地元就職者数(F)	6	人
■就職率(E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	75	%
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

かがわ総合リハビリテーションセンター、屋島総合病院、橋本病院、いわき病院、りつりん病院

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/rehabilitation/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数	124 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	25 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
うち必修単位数	25 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	25 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	25 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	3 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		6 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	6 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和8年7月23日　20:00～20:30/第2回　令和9年3月予定
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
松本　義人	医療法人社団　西高松脳外科・内科クリニック　理事長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	③
樋本　英司	一般社団法人　香川県作業療法士会　理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	①
中川　真人	介護老人保健施設　白寿の杜　リハビリ室長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	③
上杉　敬治	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―
戸倉　潤也	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　副校長 兼教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―
植野　英一	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　副校長補佐	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―
山下　良二	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ　次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
見学実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	1学年（4年制）に行われる臨床場面での実習。学生が作業療法への興味関心を高められるよう、作業療法場面の見学や対象者とのコミュニケーションを行う。	医療法人社団　雙和会　クワヤ病院、医療法人社団　研宣会　広瀬病院、一般財団法人　大西精神衛生研究所附属　大西病院、高松市立みんなの病院　（29施設）
評価実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	2学年（4年制）に行われる臨床場面での実習。対象者の心身諸機能、日常生活や社会参加を把握する実習である。	香川医療生活協同組合　高松協同病院、社会福祉法人恩賜財団済生会支部　香川県済生会病院、独立行政法人地域医療機能推進機構　りつりん病院　（17施設）
総合臨床実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	3学年（3年制）に行われる臨床場面での実習。学内で学んだ知識と技術や医療人としての態度を、実際の臨床先において統合する課程である。学生は臨床実習指導者の指導のもと、対象者の全体像把握、作業療法計画、治療・指導・援助を通して、作業療法士としてのスキルを身につける。	医療法人社団　聖心会　阪本病院、国立大学法人　香川大学医学部附属病院、医療法人社団　赤心会　赤沢病院、医療法人　西山記念会　MIRAI病院　（11施設）
総合臨床実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）		香川県厚生農業協同組合連合会　屋島総合病院、香川県立中央病院、社会福祉法人　かがわ総合リハビリテーション事業団香川県厚生農業協同組合連合会　滝宮総合病院（16施設）
評価実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	3学年（4年制）に行われる臨床場面での実習。対象者の心身諸機能、日常生活や社会参加を把握する実習である。	＊4年制への以降のため、令和8年度は該当なし

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
①本学において企画し実施する研修は、受講必須研修と任意選択研修に分ける。
②受講必須研修は、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上や学校運営・教育マネジメント等に関する専門能力の修得・向上を目的として、本学の教員として必ず修得しなければならない。
③任意選択研修は、指導力のさらなる向上や、より高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。その内容は毎年、見直しを行う 教員は毎年、最低1つは受講しなければならない。
④本学は、教員に必須研修、任意選択研修に加え、専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上を目的として、一般社団法人日本作業療法士協会、全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教員研修会、一般社団法人 職業教育・キャリア教育財団等の主催する研修や、専門団体等への研修を命ずることがある。
⑤教員は、年間15時間以上の研修を受講しなければならない。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	第59回日本作業療法学会	連携企業等：	（一社）日本作業療法士協会
期間：	令和7年11月7日（金）～9日（日）	対象：	作業療法士
内容	作業療法の価値を高めるエビデンスの創出		
研修名：	第35回四国作業療法学会	連携企業等：	（一社）高知県作業療法士会
期間：	令和8年10月17日(土)・18日(日)	対象：	作業療法士
内容	共に前へ		
研修名：	第1回 日本子ども若者学会	連携企業等：	日本子ども若者学会委員会
期間：	令和8年3月7日(土)・8日(日)	対象：	医療従事者
内容	超少子時代におけるこども若者支援を考える		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第39回教育研究大会・教員研修会	連携企業等：	全国リハビリテーション学校協会
期間：	令和8年9月26日(土)・27日(日)	対象：	養成校教員
内容	連携が拓く リハビリテーション教育の未来		
研修名：	非認知能力養成研修	連携企業等：	学校法人穴吹学園
期間：	令和7年8月18日（月）	対象：	教員
内容	学生の意識づけを高める「見取り」について		
研修名：	穴吹学園教員研修	連携企業等：	学校法人穴吹学園
期間：	令和8年9月7日（月）	対象：	教員
内容	PLAYMAKE を活用したワークショップ体験会		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	第35回四国作業療法学会	連携企業等：（一社）高知県作業療法士会
期間：	令和8年10月17日(土)・18日(日)	対象：作業療法士
内容	共に前へ	
研修名：	第28回 香川県作業療法学会	連携企業等：（一社）香川県作業療法士会
期間：	令和9年1月24日(日)	対象：作業療法士
内容	作業療法士の職業的アイデンティティーを聞く・語る	
研修名：	第60回日本作業療法学会	連携企業等：（一社）日本作業療法士協会
期間：	令和8年11月20日(金)～22日(日)	対象：作業療法士
内容	脳機構から読み解く作業療法の挑戦	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	香川県探究部会研修	連携企業等：香川県高等学校教育研究会
期間：	未定	対象：教員
内容	未定	
研修名：	穴吹学園教員研修	連携企業等：学校法人穴吹学園
期間：	未定	対象：教員
内容	未定	
研修名：	非認知能力養成研修	連携企業等：学校法人穴吹学園
期間：	未定	対象：学校法人穴吹学園
内容	未定	

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

（4）教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
（5）教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
（6）教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
松本　義人	医療法人社団　西高松脳外科・内科クリニック 理事長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	企業等委員
藤井　保貴	一般社団法人　香川県理学療法士会　副会長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	職能団体
樋本　英司	一般社団法人　香川県作業療法士会　理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	職能団体
田岡　知代	医療法人社団新進会　おさか脳神経外科病院 リハビリテーション室長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	企業等委員
中川　真人	介護老人保健施設　白寿の杜　リハビリ室長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	企業等委員
中川　弘一	香川県立香川中央高等学校　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	教育機関
平尾　浩一郎	香川県立丸亀城西高等学校　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	教育機関
亀山　健太	穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会　　会長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	卒業生
西村　康江	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 保護者会　支部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年間）	保護者会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/wp-content/uploads/2026/08/911da987165136f18befba8662f41368.pdf		
公表時期	平成38年9月1日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	その他	「その他」の場合	実習指導者会議
公表URL			
公表時期	平成38年4月4日		

授業科目等の概要

	（医療専門課程 作業療法学科）														
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○	－	－	心理学	心理学の基礎的知識に触れることを通して、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対し、多角的な視点からの思考を学ぶ	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
2	○	－	－	情報科学	「情報」の意味および価値を理解すると共に、デジタル化された情報をＩＴを使って有効な形態に加工し活用する情報活用技術全般の基礎を学ぶ	1前	1	－	○	－	○	－	○	－	－
3	○	－	－	社会学	社会の成り立ちに目を向け、作業療法士が直面する高齢社会や少子社会など様々な社会問題に目を向けて、改善の糸口を見つける	1前	2	○	－	－	○	－	－	○	－
4	○	－	－	コミュニケーション論演習	臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する	1前	1	－	○	－	○	○	○	－	－
5	○	－	－	外国語	英語、中国語、韓国語の日常会話と痛みなどの症状の訴えやその対応に関する会話はできるようにする	3前	2	○	－	－	○	－	－	○	－
6	○	－	－	健康学	健康の維持・増進のために知っておくべき知識をさまざまな視点で学ぶ。健康体操の指導ができるようにする	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
7	○	－	－	作業科学	作業療法士が焦点を当てる作業の特性を学び、作業について理解する。また、人ー作業ー環境の関係性について学ぶ	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
8	○	－	－	キャリア形成学	生涯キャリアを築くため必要な外的・内的キャリアの視点を学び、キャリアを形成していく上で必要な技能を学ぶ	3後	2	○	－	－	○	－	－	○	－
9	○	－	－	統計学	統計の種類・手法・目的について学ぶ。作業療法に必要な統計手法について学ぶ	3前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
10	○	－	－	解剖運動学概論	人体の構造や器官の名称を正確に学び、機能解剖の観点から関節運動のバイオメカニクスの理解を深める	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
11	○	－	－	上肢解剖運動学	上肢の関節や運動学について、その構造と機能について学ぶ	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－

12	○	－	－	下肢体幹解剖運動学	下肢の骨や筋肉を学び、関節の運動学を理解する。また、姿勢や歩行などについて学習する	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
13	○	－	－	解剖運動学演習	解剖学での知識に触診という技術をあわせ体表面上から身体を観察する力を養う	1後	1	－	○	－	○	－	○	－	－
14	○	－	－	内臓学	内臓器の位置と構造および機能を理解し、その異常が生じるとどのような症状が生じるか学ぶ	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
15	○	－	－	解剖学実習	人体の構造と機能の関連を学び、献体者への感謝と医療人としての倫理観を育む	2後	1	△	－	○	○	○	○	－	－
16	○	－	－	生理学Ⅰ	ヒトの身体機能の基本原理を理解し、臨床医学の基盤となる知識を体系的に習得する。特に神経機能、運動、感覚、内分泌による調節について学ぶ	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
17	○	－	－	生理学Ⅱ	感覚、血液と体液、循環、呼吸、内分泌、消化と吸収などの個々の機能と役割を理解する	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
18	○	－	－	生理学演習	生理学の基礎知識を実践的に応用し、身体機能の理解を深めることを目的とする	2前	1	－	○	－	○	－	○	－	－
19	○	－	－	脳機能解剖学	脳の構造や各部位の機能、そしてこれらがどのように運動・感覚、認知機能に関連しているかを学ぶ	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
20	○	－	－	人間発達学	発達の一般原則、発達理論を学習し、胎児期から老年期に至るまでの、人間の身体的な成長・発達および精神的な発達を学ぶ	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
21	○	－	－	病理学	細胞・組織レベルでの病的変化を学び、疾患の原因（病因）、発症機序（病態生理）、形態学的変化（病理組織像）を体系的に理解する	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
22	○	－	－	臨床心理学	臨床心理分野の疾患とその治療法を理解し、自分たちの職種で出来る各疾患の治療法について学ぶ	1後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
23	○	－	－	一般臨床医学	救命救急医療をはじめ、外科など医学一般的で代表的な疾患の概要・症状・治療について理解する	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
24	○	－	－	リハビリテーション栄養学・薬理学	作業療法業務に活かすための栄養に関する知識と薬物の効用や副作用などの知識を習得する	2前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
25	○	－	－	内科学	リハビリテーションに関係深い内科系疾患について、疾患概念や病態および治療法について基本的な知識を習得する	2前	2	○	－	－	○	－	○	－	－

26	○	－	－	整形外科学Ⅰ	整形外科に関する代表的な疾患の病態、治療を理解する	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
27	○	－	－	整形外科学Ⅱ	整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
28	○	－	－	神経病学Ⅰ	神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に脳神経外科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
29	○	－	－	神経病学Ⅱ	神経解剖・神経生理などの基本的医学知識に基づき、主に神経内科に関する各疾患の病因や臨床症状、治療などについて学習する	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
30	○	－	－	精神医学	精神症状や精神疾患など精神医学の基礎について学ぶ	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
31	○	－	－	老年学	身体面・精神面・社会面の観点から高齢者の理解を深め、廊下に伴って生じる障害や病態について理解を深める。高齢障害者における作業療法士の役割を考察する	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
32	○	－	－	リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
33	○	－	－	保健医療福祉連携論	日本の社会保障制度、特にリハビリテーションに関係の深い保険（保健）制度、医療制度、福祉制度における概要と各々の問題点を諸外国と対比しながら理解を深める	3後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
34	○	－	－	作業療法概論	作業療法に対する理解を深め、作業療法士に求められる役割を学ぶ	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
35	○	－	－	作業療法理論	代表的な作業療法理論の概要を学び、理論に基づいた評価や解釈の方法を理解し、治療に結び付けていく	3前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
36	○	－	－	基礎作業学	作業に関する基礎理論と分析を学び、体験学習も加え指導方法を検討していく	1後	1	○	－	△	○	－	○	－	－
37	○	－	－	作業治療学実習Ⅰ	作業療法で用いられるアクティビティーを体験するといった自身の五感を通した学びから、作業活動が身心に影響することを学ぶ	1後	1	－	－	○	○	－	○	－	－
38	○	－	－	作業治療学実習Ⅱ	作業活動の手順、道具の使用や管理方法など、実習を通して基本的な知識と技術を学ぶ	2前	1	－	－	○	○	－	○	－	－
39	○	－	－	作業治療学実習Ⅲ	作業活動の理解と技術習得を通じて、治療への活用法を学ぶ	2後	1	－	－	○	○	○	○	－	－

40	○	－	－	作業療法管理学	作業療法業務に必要な法制度や診療報酬制度、各種法規について学ぶ。業務遂行に必要な職場管理、倫理、教育法について学ぶ。	3後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
41	○	－	－	作業療法評価学概論	評価の目的や、流れの中で評価の位置づけを理解し、面接、観察と意識障害やバイタル測定の評価の概要を理解する	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
42	○	－	－	運動器作業療法評価学	運動器の疾患に関わる評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する	2前	1	－	－	○	○	－	○	－	－
43	○	－	－	神経筋作業療法評価学	中枢疾患や筋疾患に関与する評価の目的や意義を学び、正確な評価実技を習得する	2前	1	－	－	○	○	－	○	－	－
44	○	－	－	作業療法評価応用学	評価の選択、評価計画からICFへのまとめを行い、模擬的に対象者の全体像をとらえていく	2後	1	－	○	－	○	－	○	－	－
45	○	－	－	画像評価学	CTやMRIの画像についての基礎知識などを理解する。画像の読み取りと臨床への応用をつなげていく	3前	1	○	－	－	○	25	○	－	－
46	○	－	－	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	脳血管疾患に対する作業療法の基本的視点を説明し、臨床像を捉えて作業療法アプローチまでの一連の過程を学ぶ	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
47	○	－	－	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	難病、脊髄損傷その他の中枢性疾患に対する作業療法について学ぶ。また、ICFに基づき抽出した問題点解決に向けた治療、支援を学ぶ	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
48	○	－	－	運動器疾患作業療法学Ⅰ	ハンドセラピーに関する知識、各疾患に対する治療法・予後管理法などについての基本的知識を学ぶ	2後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
49	○	－	－	運動器疾患作業療法学Ⅱ	運動器疾患に対する作業療法の専門的知識と支援技術を習得する	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
50	○	－	－	内部障害作業療法学	生活習慣との関連性が高く、対象者人口も多い心疾患や呼吸器疾患等対象者への生活指導を含めた作業療法を学ぶ。	2後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
51	○	－	－	発達障害作業療法学Ⅰ	発達障害の作業療法を学ぶ基礎として、まず小児の正常発達について学び、脳性麻痺の臨床像、作業療法を学習する	2後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
52	○	－	－	発達障害作業療法学Ⅱ	発達障害の各疾患を身体的・社会的・発達的側面から捉え、問題点を評価し、治療計画及び治療手段を学習する	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
53	○	－	－	精神障害作業療法学概論	精神障害のリハビリテーションの流れを理解する。精神障害作業療法の構造と形態を学び、作業療法の目的と役割を理解する	2前	1	○	－	－	○	－	－	○	－

54	○	－	－	精神障害作業療法学Ⅰ	各精神疾患の作業療法について、その対応・治療について学び、臨床への応用の学びを深める	2後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
55	○	－	－	精神障害作業療法学Ⅱ	国家試験過去問題等の事例を取り上げてグループ内で検討し、精神障害作業療法の対象者への作業療法サービス内容と基本的対応を身につける	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
56	○	－	－	高齢期作業療法学	高齢者の特徴や環境を踏まえ、高齢障害者に対する作業療法について理解し、実践力を身につける	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
57	○	－	－	生活支援学	生活行為に関連する、人ー作業ー環境の理解を深める。生活行為に対する評価方法を学び、観察力を養う	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
58	○	－	－	生活支援学演習	生活行為の視点をもとにした観察力を養い、記載できる。評価法を理解し、実習で使用できるようにする	2前	1	△	○	－	○	－	○	－	－
59	○	－	－	生活行為向上マネジメント学	MTDLP(生活行為向上マネジメント）を用いた作業療法の考え方を身につける	3前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
60	○	－	－	生活行為向上マネジメント学演習	評価実習で実際に行った評価について振り返り、症例発表を行う。臨床で実践している先生の実例から学ぶ	3後	1	－	○	－	○	－	－	○	－
61	○	－	－	義肢学	切断者とその家族が、安心かつ安全な日常生活が送れるように支援するための知識や技術を学ぶ	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
62	○	－	－	装具学実習	適応疾患の知識を含め、装具の種類・装具療法を理解した上で、作成に必要な基礎知識を学ぶ	3後	1	△	－	○	○	－	○	－	－
63	○	－	－	ペーパーペイシェント	身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域および高齢期障害領域の事例検討	3後	1	－	○	－	○	－	○	－	－
64	○	－	－	作業療法研究論Ⅰ	研究法について知識を習得し、臨床実習や臨床業務について、その知識が活用できるようにする	3後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
65	○	－	－	作業療法研究論Ⅱ	研究計画に基づき、調査、結果をまとめ、発表する	4後	2	○	△	－	○	○	○	－	－
66	○	－	－	動作分析学	生活行為における動作を観察・分析する	2後	1	○	△	－	○	－	○	－	－
67	○	－	－	パラスポーツ学	パラスポーツを通して健康の概念を理解し、作業療法士が対象者の健康増進、社会参加に関わる必要性を学ぶ。初級パラスポーツ指導員の取得を目指す	4後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
68	○	－	－	スキルアップ専攻学Ⅰ	作業療法士が対象者の生活の質を高めるために活用できる周辺スキル（メイク、調理、音楽、空間、ICTなど）を体験的に学び、支援の幅を広げる	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－

69	○	－	－	スキルアップ専攻学Ⅱ	作業療法士が対象者の生活の質を高めるために活用できる周辺スキル（ビジネスマナー、動物との関り、美容技術など）を体験的に学び、支援の幅を広げる	3後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
70	○	－	－	作業療法治療応用学	身体や精神など各領域で行っているアプローチ方法や治療技術などを実戦形式で学ぶ	4後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
71	○	－	－	地域共生学Ⅰ	「地域共生社会」の理念と実践について学び、多様な人々が共に暮らす社会のあり方を探究する	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
72	○	－	－	地域共生学Ⅱ	地域について調べ、地域の方と交流し、地域の課題について考える	2前	1	○	△	－	○	○	○	－	－
73	○	－	－	住環境調整学	高齢者や障がい者をはじめとする多様な生活者が、安全かつ快適に暮らせる住環境のあり方について学ぶ	3前	1	○	－	△	○	○	○	－	－
74	○	－	－	地域作業療法学	地域社会での保健・医療・福祉について理解し、作業療法を必要としている人によりよい作業療法を提供できるようにする	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
75	○	－	－	福祉用具学	移動及び移乗関連用具・排泄関連用具・入浴関連用具・コミュニケーション関連用具・更衣や整容関連用具・食事関連用具・自助具について理解する	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
76	○	－	－	就労支援学	職業リハビリテーションの概念を学び、就労支援に関連する制度や支援技術、各障害に対する作業療法の流れを学ぶ	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
77	○	－	－	見学実習	臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	1後	1	－	－	○	－	○	○	－	○
78	○	－	－	評価実習Ⅰ	臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	2後	4	－	－	○	－	○	○	－	○
79	○	－	－	評価実習Ⅱ	臨床経験5年以上の作業療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	3後	4	－	－	○	－	○	○	－	○
80	○	－	－	総合臨床実習Ⅰ	臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習指導者）が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	4前	8	－	－	○	－	○	○	－	○
81	○	－	－	総合臨床実習Ⅱ	臨床経験5年目以上の作業療法士（臨床実習指導者）が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う	4前	8	－	－	○	－	○	○	－	○
合計					81　科目　　124　単位											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	取得単位124単位以上	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	作業療法士養成校指定条件	１学期の授業期間	16 週